

音 樂

(8) 音 楽

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 音楽的な見方・考え方を働かせながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合うなど、音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、コンピュータや教育機器を効果的に活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽と関わることができるような体を動かす活動の工夫や、学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生活や社会の中の音や音楽と関わっていくことができる工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わえる学習活動の工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
音 楽	小学音楽 音楽のおくりもの	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 音楽的な見方・考え方を働かせて、学習活動に取り組めるように、音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として紙面右上に示されている。中・高学年では、児童が聞き取ったり感じ取ったりした要素を書き込めるメモ欄が設けられている。
 - 〔例〕1年「リズムとなかよし」(P19)、6年「短調のひびき」(P13) など
- 聴き取ったことや感じ取ったことなどを言葉で表現する際のヒントとなるように、巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」が掲載され、言語活動が充実するよう工夫されている。
 - 〔例〕2年「音楽をあらわすいろいろなことば」(P73) など
- 「音のスケッチ」のページが設けられ、音をつなげて旋律をつくったり、音の重なりや全体の組み立てなどを工夫してまとまりのある音楽をつくり上げたりするなど、他の児童と違いや考えを出し合い、試行錯誤しながら学習を進めることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕3年「音のひびきや組み合わせを楽しもう」(P58～59) など
- 目次の二次元コードを読み取ることによって、曲の説明、作曲者のメッセージ、鑑賞資料、音に連動した楽譜、楽器の範奏など、学習を支援するコンテンツをICT機器で効率的に閲覧することができるよう工夫されている。
 - 〔例〕4年「目次右下」、5年「目次右下」など
- 紙面左上に学習のめあてを提示し、また、方位磁針のイラストマークがついた「まなびナビ」のコーナーで学び方や学びのプロセスを示すことで、児童が見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕4年「かけ合いと重なり」(P32～33)、5年「声のひびき合い」(P22～23) など
- 前に学習したことを振り返るためのページがカエルのイラストマークで示され、学んだことを繰り返し確認することで基礎・基本が身につくよう配慮されている。
 - 〔例〕6年「ききどころを見つけて」(P29) など
- 音楽との一体感を味わえるよう、低学年では、音楽に合わせて体を動かす活動や音楽を聴いて感じ取ったことを身ぶりで表現する活動が取り上げられている。
 - 〔例〕1年「おんがくにあわせてからだをうごかそう」(P8～9) など
- 旋律の特徴の違いを感じ取らせるための「体の動きの例」や和音の響きの違いを感じ取らせるための「ポーズの例」など、体を使った学習活動がイラストで示されている。
 - 〔例〕3年「せんりつの流れとへん化」(P32～33) など
- 生活の中で音や音楽が果たしている役割や、音楽活動が人々の心をつないでいることを取り上げたコラムが掲載されており、音や音楽と生活や社会の関わりについて考えることができるよう配慮されている。
 - 〔例〕6年「音楽にできること 心を伝える 心をつなぐ」(P40～41) など
- 折り込みを使ったワイドな紙面や見開きの紙面に歌詞の内容を表現した写真やイラストを掲載するなど、児童の学習への興味・関心を高めたり、歌詞の情景や心情を思い浮かべたりすることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕3年「茶つみ」(P12～13)、4年「さくら さくら」(P8～9) など
- 現在活躍している音楽家や狂言師のメッセージ及び活動場面の写真が大きく取り上げられ、音楽の学習への意欲が高められるようになっている。
 - 〔例〕5年「狂言師」(目次前のページ)、6年「ピアニスト」(目次前のページ) など
- 巻末の「音楽ランド」には、合唱や合奏に取り組める曲などが多彩に取り上げられており、

児童の実態や興味に応じて選択して取り組むことができるようになっている。

- 図書館やインターネットなどで音楽に関することを調べる学習活動が示されており、社会科や総合的な学習の時間との関連が図られている。
- 自分のよさや可能性を認識したり、多様な他者を価値のある存在として尊重したりするなど、道徳教育の観点に立った歌詞や写真などが選ばれている。
- 「Short Time Learning」のコーナーに英語の歌が取り上げられ、児童が英語に親しむことができるよう工夫されている。また、様々な国の音楽が幅広く取り上げられている。
〔例〕3年「音楽ランド」(P62)、4年「音楽今昔」(P44～47) など

2 使用上の便宜

- 学んだ知識や技能を着実に身につけ、学びを深めることができるよう、題材構成や領域・分野ごとの系統性について配慮されている。
- 判型は、低学年はA B版、中学年以降はA 4変形版と学年でサイズを区別することで、児童の発達にあわせた配慮がされている。
- 鍵盤ハーモニカと鍵盤図がびたりと合うような紙面となっており、児童が楽しみながら楽器の演奏の仕方を身につけることができるよう配慮されている。また、学習内容を着実に身につけたり、理解を深めたりするための透明シートが設けられている。
- 目次は、「導入部分」「主要部分」「オプション部分」の3つで構成されている。巻末の折り込みページには、リコーダーの運指表や音符・休符・記号、音符の書き方の例などがまとめられている。
- 判読しやすいように配色やレイアウトが工夫されており、UDフォントを使用するなど、児童にとって学びやすい紙面となるよう配慮されている。

3 その他

- 歌唱共通教材を含む日本の歌は、「にっぽんのうた みんなのうた」のコーナーで、歌い継いでいきたい我が国の歌として取り上げられている。
〔例〕1年「うみ」(P26～27)、6年「おぼろ月夜」(P8～9) など
- 中学年から始まる和楽器の学習として和太鼓や箏が取り上げられ、鑑賞したり演奏したりして日本の音や音楽に親しむことができるよう工夫されている。
〔例〕4年「日本の楽器をたずねて」(P60～61) など
- お囃子の太鼓のリズムを口唱歌で歌ったり、声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動など、児童が地域に伝わる音楽に親しみがもてるよう工夫されている。
〔例〕5年「日本の民ようをたずねて」(P36～39) など
- 4、5年生では「日本の楽器をたずねて」、6年生では「私たちの国の音楽」のコーナーが設けられ、篠笛など日本の楽器を紹介し、我が国や郷土の文化を大切にする態度を育めるよう工夫されている。
〔例〕6年「私たちの国の音楽」(P36～37) など

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
音 楽	小学生の音楽	27 教 芸

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 音楽的な見方・考え方を働かせて、学習活動に取り組めるよう、音楽を形づくっている要素が紙面右下に示されている。また、各学年で学習した音楽を形づくっている要素は、「ふり返りのページ」に見開きでまとめられている。
 - 〔例〕1年「はくをかんじとろう」(P19)、2年「ふりかえりのページ」(P80～81)など
- 着目したり考えたりする際の観点や他の児童と話し合う際の発言例などを、キャラクターによる吹き出しで示すことで言語活動が充実するよう工夫されている。
 - 〔例〕3年「拍ののってリズムをかんじとろう」(P30～31)など
- 自分が考えたリズムや旋律、伴奏などを書き込めるワークシートが設けられ、他の児童と意見を交換したり、実際に音で試すことを繰り返したりしながら、ともに一つの音楽をつくり上げていく協働的な学習が進められるよう配慮されている。
 - 〔例〕4年「日本の音楽でつながろう」(P60～61)など
- 二次元コードを読み取ることによって、曲の説明や打楽器の範奏、旋律楽器の運指、学校外における音楽活動の鑑賞資料など、学習を支援するコンテンツをICT機器で効率的に閲覧することができるよう工夫されている。
 - 〔例〕5年「曲について」(P15)、「短調の音階」(P17)など
- 1年間に学習する内容について大まかなイメージをもつことができるよう、目次の前に「学びの地図」のページが設けられている。また、見通しをもって学習に取り組めるよう、題材のねらいや学習目標、活動文がよびかけの形で紙面左にわかりやすく示されている。
 - 〔例〕6年「6年生の学習」(P4～5)、「歌声をひびかせて心をつなげよう」(P10)など
- 前に学習したことを確かめるためのページを「おもいだそう」のマークで示し、新しい学習内容と前の学習内容を関連づけながら学びが深められるよう配慮されている。
 - 〔例〕1年「はくにのってリズムをうとう」(P23)など
- 音楽との一体感を味わえるよう、低学年では、体を動かしながら歌うことができるわらべうたや遊び歌、楽しく遊びながらリズム打ちをする活動が取り上げられている。
 - 〔例〕2年「はくのまとまりをかんじとろう」(P14～15)など
- 音の高さの違いを手の動きと関連づけて音程感を育てる「ドレミ風船」や、和音の響きの違いを体を動かして感じ取る「和音体操」など、体を動かす学習活動が取り上げられている。
 - 〔例〕5年「和音の移り変わりを感じ取ろう」(P34～35)など
- 身の回りの音を見つける学習活動や身の回りで音がどのような役割をもっているのかについて説明するコラムや写真が取り上げられ、児童が音や音楽と生活や社会との関わりを考えることができるよう配慮されている。
 - 〔例〕6年「音の働きや役割について考えよう」(P74～75)など
- 歌詞の内容を表現したダイナミックな写真や楽団の全体を写した写真を見開きで掲載するなど、児童が歌詞の表す情景や心情を思い浮かべたり、学習への興味・関心を高めたりすることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕3年「茶つみ」(P14～15)、5年「いろいろな音色を感じ取ろう」(P26～27)など
- 現在活躍しているスポーツ選手や歌舞伎役者のメッセージや写真、演奏家からのワンポイントアドバイスが取り上げられ、音楽の学習への意欲が高められるようになっている。
 - 〔例〕6年「歌舞伎役者」(P2～3)、3年「リコーダー奏者」(P25)など
- 巻末の「みんなで楽しく」には、歌唱、器楽の曲が多彩に取り上げられており、児童の実

態や興味に応じて選択して取り組むことができるようになっている。

- 社会科や総合的な学習の時間との連携を図った音楽を調べる活動が取り上げられ、調べ方やインタビューでのやり取り例なども示されている。
- 自分のよさや可能性を認識したり、多様な他者を価値のある存在として尊重したりするなど道徳教育の観点に立った歌詞や写真などが選ばれている。
- 第3学年から始まる外国語活動の学習がより楽しく展開できるよう、英語の歌が取り上げられている。

〔例〕3年「みんなで楽しく」（P77）、4年「みんなで楽しく」（P77）など

2 使用上の便宜

- 児童の発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、学習を積み重ねていくことができるよう、題材構成や音楽を形づくっている要素などの系統性について配慮されている。
- 判型はA B版となっており、楽譜や写真、イラストが大きく掲載されている。
- 児童が6年間でいろいろな音楽と出会い、友だちと関わり合いながら音楽表現することの楽しさを味わうことができるよう、6学年分の教科書を並べると、表紙のイラストがつながり、一つのイラストになる工夫がされている。
- 目次には、ヒントを出したり考えるきっかけを示したりして、児童の学習活動を深めたり、サポートしたりするキャラクターが紹介されている。巻末には、リコーダーの運指表や音符・休符・記号などがまとめられている。
- 優しい色調のイラストや、白を基調とするすっきりとしたデザインを採用するなど、児童にとって見やすく学びやすい紙面となるよう工夫されている。

3 その他

- 歌唱共通教材は、「こころのうた」と題し、世代を超えて受け継いでいきたい曲として扱われている。また、巻末に「歌いつごう日本の歌」コーナーも設けられている。
〔例〕1年「うみ」（P28～29）、2年「うたいつごう日本のうた」（P70～71）など
- 中学年から始まる和楽器の学習として和太鼓や箏が取り上げられ、鑑賞したり演奏したりして日本の音や音楽に親しむことができるよう工夫されている。
〔例〕4年「日本の音楽でつながろう」（P56～61）など
- お囃子の太鼓のリズムを口唱歌で歌ったり、声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動など、児童が地域に伝わる音楽に親しみがもてるよう工夫されている。
〔例〕3年「ちいきにつたわる音楽でつながろう」（P62）など
- 裏表紙には、「わたしたちが受け継ぐ」と題して、各地に伝わる郷土芸能を大切に受け継いでいる子どもたちの写真が掲載され、我が国や郷土の文化を受け継ごうとする気持ちが育まれるよう工夫されている。
〔例〕1年「おててこ舞」（裏表紙）、4年「請戸の田植踊」（裏表紙）など